

平成 23 年 6 月 2 日

企業結合専門委員会 ディスカッション・ポイント

1. これまでの検討経緯

- 企業結合（ステップ 2）プロジェクトでは、平成 21 年 7 月に公表した論点整理に対するコメントを踏まえ、順次、方向性の検討と文案レベルの検討を行っている。
- 第 217 回（1 月 21 日）及び第 218 回（2 月 3 日）の委員会では、公開草案の公表に向けて必要な論点の検討を行っている。
- 前回（5 月 19 日）の委員会に引き続き、のれんの取扱いについて検討を行っていきたい。

2. ディスカッション・ポイント

これまでの議論を分析すると、以下のように対立軸を整理することが考えられる。

償却・非償却の考え方は両者とも一定の論拠があることを踏まえると、もっぱら国際的な会計基準とのコンバージェンスを重視して、非償却に変更すべきである。

現状の日本基準の基本的な考え方と国際的な会計基準の考え方が対立する中で、コンバージェンスのみを理由とした会計基準の変更は合理的根拠が乏しい。このような局面において、コンバージェンスすることに対する市場関係者の十分なコンセンサスが得られるまでは変更すべきではない。

上記を踏まえた場合、のれんの取扱いについては 2 つの対応案が考えられる。

A 案：連結非償却、単体償却（連結先行）

B 案：現時点では結論を出さず償却処理を継続する。

ディスカッション・ポイント

✓ 対応案（A 案、B 案）について、どのように考えるか。

以 上